

# Greetings

## ご挨拶

北米と日本を中心に展開してきました巡回展示会「少女マンガパワー! (2005-2008)<sup>\*1)</sup>」に続き、4コママンガアート展示会<sup>\*2)</sup>「世界で今何が起こっているのか(2008-)」を皆様がたの暖かいご支援とご協力を得て開催できますこと、心より御礼申し上げます。

本展は、現在世界中で読まれ親しまれるようになったマンガ、そして子どもたちにとって最も人気を博しているマンガの表現方法を使用して、子ども(若者)たちの声を世界に発信しようという目的で企画されました。2008年～2009年にかけて、日米から約7百点の公募作品(小学校、中学校、高校、そして大学生)が集まりました。その中から約百点を選びこの図録で紹介させていただきます。

この展示会を皮切りに、また世界各地で新たな子どもたちの作品が集まり、「子どもたちの声!こどもたちの目を通して見た世界!」として世界を巡回していくことを祈年して、ご挨拶の言葉に代えさせていただきます。

## 徳雅美

プロジェクトディレクター

After the touring exhibition of “Shojo Manga Power! (2005-2008)<sup>\*1)</sup>,” I am very happy to begin the 4-panel children’s art show<sup>\*2)</sup>, “Voices: What’s Going on in the Youth World?,” as a new touring exhibition starting in 2008.

This show was developed based on a call for artwork from all over the world in 2008. The purpose of this show is to express children’s observations of our world based on their own points of view. The views are not necessarily the same as typical adults’ views. This art show was composed of artworks depicted by children in their most preferred art style of manga. These 4-panel artworks incorporate some of the visual elements of manga with a graphic narrative. During the first year of 2008 – 2009, approximately 700 artworks were collected, mainly from Japan and the US. The ages vary from 5th through 12th grades. About 100 artworks were selected among them to introduce in this catalogue.

I hope that this exhibition will continue to travel all over the world and collect many children’s artworks from each venue to express children’s true voices. Finally, without your support and contributions, this show could not succeed. I am looking forward to having your continuous support in the near future as well.

## Masami Toku

Project Founder and Director

## Contents

### 目次

### Greetings

ご挨拶

### Background of 4-panel Art Exhibition

4コマアート展示会にいたるまで

### Call for 4-panel Art

4コママンガアート公募紹介

### Examples of Category A Artworks

公募A作品紹介

### Examples of Category B Artworks

公募B作品紹介

### Acknowledgements

謝辞

## 4コマアート展示会に至るまで

この4コマ(マンガ)アート公募展のきっかけとなったのは2001年からカリフォルニア州立大学チコ校の教員養成コースの中で実施した美術教育カリキュラムが元になっている。

当時米国の美術教育ではヴィジュアル(ポップ)カルチャー(Visual pop-culture)がトレンディーなテーマとして盛んに話題となっていたが、ヴィジュアルカルチャーの理論的な解釈と視覚イメージを通して社会をどう読み取るかの批評的アプローチが中心で、それに伴う効果的な実践カリキュラムについてはまだ試行錯誤の状態であった。

一方日本においては、当時ヴィジュアルカルチャーの中心を担っていたマンガが、日本を超え世界へと広がり、世界中のこどもたちを魅了し始めた頃でもあり、それが米国の美術教育界でも話題になり始めた頃であった。

それはまた、こどもたちを魅了してやまないマンガの人気理由、そして子どもの認知や美意識に与えるマンガの影響など、マンガそのものがアカデミックなテーマとして話題になりはじめていた時期とも一致する。

他国のコミックには見られない、日本のマンガ独自の魅力とは何なのか。それが、コミック共通の3つの構成因子(絵、言葉&吹き出し、コマ)のマンガにおける特異的発達と使用方法にあるということとは現在周知の事実である。またグラフィックノーベル(Graphic Novel)というマンガの代名詞にも現れるように、マンガで表現されるストーリー展開の質の高さが、男女年齢を超えて世界を魅了する要因になっている。

そこでこのマンガの特徴を使ってその魅力を損なうことなく、どのように美術教育カリキュラム(レッスンプラン:Lesson Plan)の中に採用していくのかを考えていくことになった。一般的な描画の発達論、例えば、リード、ローウェンフェルド、ウィルソン(Read, Lowenfeld, Wilson)を見るまでもなく、発達の過程でこどもたちが必ず通るパターンの一つとして、「絵の中に物語を作りあげる」という特徴が普遍性としてある。そこでその物語を、一枚の絵ではなく、パネルの連続した絵という形で、それもマンガ(コミック)形態の特徴の一つである4コマという形で表現するカリキュラムを作成してみた。「4コマ」つまり「起承転結」の形で表現すること、日本では一般的な4コママンガの表現方法だが、偶然に米国において、文章を組み立てる基本的な方法論が「起承転結」と同じ4つの展開[Introduction, Supporting sentence, transition, and conclusion]であることを発見し、これを文章ではなくヴィジュアル(Visual)、つまり絵を使って4つの展開パターンを表現する、日米共通のヴィジュアルリテラシー(Visual Literacy)を高める効果的なカリキュラムとして実施することとした。

実はこのカリキュラムを組み立てるにあたって、参考になった三つの既存のプログラムが存在する。ひとつはニューヨークのティーチャーズカレッジコロンビア大学のビッツ博士(Michael Bitz, Teachers’ College Columbia University)が展開するコミックブックプロジェクト(Comic Book Project : http://www.comicbookproject.org/)である。放課後プログラムとして子どもたちに人気のあるマンガを利用して、こどもたちに自分たち自身のこと(出来事)を表現するコミックブックを作成する過程を通して、リテラシー教育するというもので、2001年に発足して以来、米国国内で多くの成果をあげている著名なプログラムであり、この4コマアートプログラムの理論的サポートにもなっているビジュアルリテラシー教育プログラムである。

またひとつは兵庫教育大学の福本氏の「ArtManga」というプログラムであり、著名な名画をもとに4コマに発展させるというカリキュラムで、言うまでもなくこれはこの公募Bの内容の元になったものである。

最後に、現在私がこのヴィジュアルポップカルチャーを研究テーマのひとつとして研究する方向に導いてくれた元ペンシルバニア州立大学のウィルソン博士(Brent Wilson, Pennsylvania State University)の日本の子どもたちから集めた1990年代の4コママンガ研究がある。彼は日本のマンガの価値と子どもたちへの影響の大きさを米国の美術教育界に始めて紹介した研究者であり、マンガというテーマが日本の美術教育の研究の中で過小評価されがちであったものを、こどもの認知への影響という形で、アカデミックな研究テーマとして再評価に至る糸口を作ったことを忘れてはならないと思う。

これらのプログラムと出会うことがなかったら、この4コマアートプログラムも存在し得なかった。改めて感謝申し上げたい。

2001年カリフォルニア州立大学チコ校の教員養成プログラムの中で、カリキュラムの一例として構想から始めたこの4コマアートレッスンが7年という年月を経て、一般公募という形で世界から作品を集めるとい形で展開していくことになった。その成果を展示会として紹介できることをとてもうれしくまたありがたく思うと共に、今後巡回として展開していく中で、巡回各地でまた新たな作品が集まり、各地のこどもたちの声が大きく響き渡り、私たちの世界がまた新たな視点で再認識されることを、そしてよりよい世界になっていくことを、願わずにはいられない。こどもたちに未来があるか、そしてその未来を私たち大人はちゃんと残していけるのだろうか。こどもたちの声を通して今私たち自身が真剣に考える時期に来ているのだと思う。

Notes 1) Shojo Manga Power!: www.shojomangapower.com 2) 4-panel MangaArt show: www.amamina.com